

みやぎの 林業だより

みやぎ森林・林業未来創造カレッジ研修講座の先行的な開催



研修拠点となる県林業技術総合センター

地球規模の問題に、
林業で取り組む若い世代を育成し、
日本や宮城の活力アップへ。



「森林調査講座」



「広葉樹ビジネス講座」



「林業DX講座」



特集 みやぎ森林・林業未来創造カレッジの開校！

産業界・地域団体・行政の連携・協働による、みやぎ森林・林業未来創造機構を中心に、林業を志望する若者や、知識・技術の習得を目指す就業者などの多様なニーズに応える学びと実践の場として、「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」が、令和4年4月、大衡村に開校します。

カレッジでは、森林・林業分野の成長をけん引する担い手を育成することで、林業が『持続可能な循環型産業』・『地域活力を生み出す森林活用型産業』へと発展し、笑顔あふれる森林・林業の実現を目指していきます。

本号では、カレッジの具体的な研修内容や、先行実施された講座の受講生の声などを特集します。



緊急治山工事(丸森町廻倉地区)の完成(P7)



ICT搭載ハーベスタによる省力化の実証(P5)

令和4年3月22日
発行

226号

特集	みやぎ森林・林業未来創造カレッジの開校！	1～3
話題	トピックス	
	◎森林情報のデジタル化推進を開始しました	4
	各種取組	
	◎令和3年度県産材新流通システム構築事業現地検討会について	5
	◎東日本大震災による海岸防災林の復旧と今後の保育管理について	5
	◎首都圏における県産木材販路拡大に向けて	6
	◎山元町の菌床しいたけ「しいたけ婦人」デビュー	6
	◎令和元年東日本台風被害地の緊急治山工事が完成しました	7
	◎コンクリートで山を守る(元年東日本台風災害復旧工事の完了)	7
	◎林道施設災害(令和元年10月12～13日発生)の復旧完了	8
	◎栗原市における新たな森林管理システムの取組	8
	◎カシナガ大軍団を一斉捕獲	9
	◎雄性不稔(無花粉)スギ個体の作出と品種開発に関する研究	9
	◎鳥獣被害対策意見交換会の開催	10
	◎屋敷林は野鳥の社交の場	10
	◎春の山火事に御注意ください！	11
	◎地域の緑化活動のための寄附金～「宮城みどりの基金」～	11
市況	◎木材市況の動向・特産市況の動向	12

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html>



特集

**みやぎ森林・林業未来創造
カレッジの開校！**

①開校にあたって

令和四年四月に林業の人材育成を担う「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ(以下、カレッジ)」が開校します。

当カレッジは「働きながら学ぶ」ことを目的に設置しており、現場の技術者から事業体の経営者までを対象にして、学び直しやスキルアップ・キャリアアップの機会を提供していきます。

また、カレッジは、大衡村の県林業技術総合センターを拠点にしながら、県内の事業体や市町村とも連携して、その事業地や市町村有林などを研修フィールドにして各地で実習を行うことにしています。

令和三年度には、四つの講座を先行的に実施しましたが、参加いただいた皆様と一緒に勉強を進めていくワークショップ型の研修形式など、御好評をいただきました。

②研修内容等について

現在、令和四年度の本格開校に向けて、講座の準備を進めています

(表)。各講座は、働きながら学ぶ方向けの選択型の講習であることから、講座毎の申込制としており、カレッジを運営する県林業技術総合センターに直接の申し込みとなるほか、令和四年四月には研修の詳しい内容から申し込みまでに対応した専用のホームページを開設することとしています。



広葉樹を活用したビジネス支援研修

カレッジの研修内容は令和二年十二月に設立した産業界や行政、林業研究会などの団体が連携して担い手の確保育成に取り組む「みやぎ森林・林業未来創造機構(以下、機構)」で検討してきました。

③新規就業者向け研修

就業した方がすぐにチェーンソーや刈払機を扱えるよう、労働安全衛生法に基づく特別教育と林業の基礎知識について講義を行う「スタートアップ研修」を四月中に行うことや、若手就業者でもすぐに機械操作ができるよう、実務経験二程度で受講のできる「高性能林業機械作業技術者養成研修」など、機構の検討での意見を反映しながら開講の準備を進めてきました。

また、林業分野でのDX(デジタルトランスフォーメーション)などの先進課題や、広葉樹の加工・流通などの新たな取り組みを支援する研修も実施することとしています。

②経営者向け研修

事業体の経営者向けには、宮城県林業労働力確保支援センターを運営する公益財団法人みやぎ林業活性化基金(以下、基金)が実施する「森林マネジメント力強化支援・経営者層研修」を組み込んで、一体的に運営して行くことにしています。

この研修は、事業体毎に経営ビジョンを立てる実践的な研修となっており、経営面の強化を支援する機会を提供することによって、林業担い手の就業環境の向上につながるよう支援してまいります。

③スキルアップ研修

技術力の底上げには、指導者の養成が急務であることから、作業道の作設オペレーター、高性能林業機械、伐倒技術の指導者養成講座を実施してまいります。特に、伐倒においては、重大な労働災害となるリスクが高いことから二年間で十七日間実施します。当研修は、前述の「森林マネジメント力強化支援」と同様、基金によって、令和二年度から実施しておりますが、伐倒練習機を導入し、現場リーダークラスの方に参加いただき、基礎からの学び直しに取り組んでいただいております。



伐倒練習機を使用した指導者養成研修

事故のない就業現場は、就業者確保の大前提となることから、伐倒技術を理論的に教えることの出来る指導者が各事業体に一人以上は

いるというところを目指してまいります。

三.交流の場の創出

カレッジの開校にあたり、令和三年十一月には、キックオフセレモニーを開催したところですが、令和四年五月中旬頃には受講生の皆様と開校式を行うことにしています。また、昨年七月と十一月に実施したオープンカレッジを来秋も予定しており、公開講座や就業者の交流会、林業機械のデモンストレーションなど、会員の交流の場を提供していきます。



受講生から知事へ広葉樹木工品を贈呈

カレッジは、先に述べましたように機構による検討を反映して実施してまいります。機構では、研修による人材育成と同時に経営強化を通じた就業環境の向上にも取り組

みやぎ森林・林業未来創造機構カレッジの主な研修

【林業技能者向け】 技能習得支援

Table with 2 columns: 研修名 (Course Name) and 概要 (Overview). Rows include: スタートアップ研修, 高性能林業機械作業技術者養成研修, 森林作業道作設オペレーター育成研修, 高性能林業機械メンテナンス技術者養成研修, 伐倒技術指導者養成研修, 森林作業道作設オペレーター指導者研修, 高性能林業機械実技指導者養成研修.

【林業事業者の事業管理者・経営者向け】経営実務の習得, キャリアアップ支援

Table with 2 columns: 研修名 (Course Name) and 概要 (Overview). Rows include: 事業管理者基礎研修, 森林施業プランナー養成研修, 森林マネジメント力強化支援 "森林施業プランナー", 森林マネジメント力強化支援 "経営者層研修".

【林業事業者の経営者・事業管理者や起業家向け】 先進的取り組みへの技術習得支援

Table with 2 columns: 研修名 (Course Name) and 概要 (Overview). Rows include: 広葉樹ビジネス講座, 育林ビジネス講座, スマート林業研修(森林調査), スマート林業研修(林業DX推進).

【市町村や団体で地域の森林を管理する人向け】森林施業や集約化のスキルアップ支援

Table with 2 columns: 研修名 (Course Name) and 概要 (Overview). Rows include: 森林経営管理技術者養成研修, 地域林政アドバイザー研修.

むこととしており、こちらも令和四年度から本格的な検討を進めてまいります。事業体などの皆様にお話を伺いながら検討して行く「プロジェクト勉強会」などを実施し、人材の育成と同時に就業者が将来にわたって、安心して働くことの出来る就業環境の実現を、目指してまい



林業 × SDGs

ります。皆様の御協力をお願い申し上げます。(林業振興課)

次ページでは、実際にカレッジの先行講座を受講していただいた方々から、受講の感想や、カレッジに今後期待することなどの声をいただいております。

カレッジ受講生の声

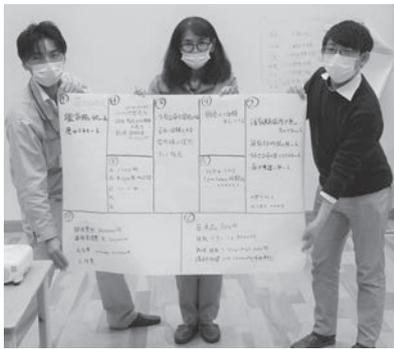


菅原 勝巳さん
(栗駒高原森林組合)

平成21年に栗駒高原森林組合に入組。業務課係長としてプランナー業務や民有林の造成に従事していらっしゃいます。

私は栗駒高原森林組合にて森林施業プランナーや地域林政アドバイザーとして市内の育林業務に従事しております。直近では森林経営管理制度関係の業務や、北部地方振興事務所栗原地域事務所の協力も得ながら「苔」の試験栽培や普及活動にも力を入れております。当組合としてもこれからの新しい林業の形を模索しており、林業DX講座の受講を通してDXの基礎から森林の新たな価値の提案やサービスの提供に必要な知識を学ばせて頂きました。NECソリューションイノベータから講師をお招きし、デジタルマナ

ジメントシステムやブロックチェーン技術など、私の日頃の業務中にはまず触れない内容でレベルは高く感じられますが、毎回新たな可能性を掻き立てられます。研修では受講生同士でのグループワークをする時間が多く設けられていて、受講生の得意分野の強みを活かした意見や取組、情報交換、講義内容以外にも参考になる気づきが多くあります。林業DXは林業の新たな構造改革の可能性を秘めていると感じます。特にこれからは事業体毎の連携も必要になると実感しました。このような研修が多く開催されれば、より一層宮城の林業の活性化に繋がるはずで、その一員として私も次世代に安心して引き継がれるような持続可能な森林整備や林業経営の力になれるよう活かしてまいります。



グループワークの様子



入岡 知美さん

(登米市地域おこし協力隊)

令和元年に登米市地域おこし協力隊の木工芸支援員として着任。木工技術の習得や、木工加工品の販路拡大に取り組まれています。

現在、登米市地域おこし協力隊木工芸支援員として、道の駅津山内の「もくもくハウス」に並ぶ木工品の製作をしながら技術の習得を行っております。津山の木工品といえば、スギの矢羽集成材を用いた商品が特徴ですが、今後オリジナル商品を開発していくにあたり、スギだけでなく様々な表情を持つ広葉樹と組み合わせたら、更に商品の幅が広がるのではないかという思いを持ち、令和三年度のカレッジ先行講座受講に至りました。

講座内容はとても楽しく充実しており、加美町の鎌田林業土木さんの事務所や作業場、材料ストック場の見学、登米町森林組合さんでの天日乾燥の木積み作業や朝ドラ使

用製品の見学等、普段見ることのできない場所を見せていただいたり、普段やらない作業ができたことは大変貴重な体験でした。センター内で伐採された広葉樹を、用途に合わせて製材し加工の流れを知る研修や、オリジナルスツール製作の研修では、暑い中での作業でしたが、参加者全員が生き生きと作業に取り組む姿が印象的でした。受講生同志の交流も回を重ねるにつれ深まっています。

また、コロナ禍で他県への研修が中止となってしまうことが、事務局のみなさんが取材に行つて撮影した動画と、オンラインで藤島木材工業さんと繋ぐという工夫のおかげで、実際に現地に行つたかのような研修を行うことができ、講座における事務局のみなさんの熱意と細やかな配慮が、受講生としては随時感じられました。

令和四年度のカレッジ開校では、先行講座の充実した内容から今後の展開にとっても期待が高まっております。新規受講生の方々と共に、研修の中で新しい取り組みにどんどんチャレンジしていければと思っております。



森林情報のデジタル化 推進を開始しました。

一・森林クラウドシステムの導入

これまで県内民有林の情報は「森林情報管理システム」により管理してきましたが、令和二年度宮城県森林情報管理システムクラウド化業務で新たに導入した「宮城県森林クラウドシステム（以下、森林クラウドシステム）」に情報を移行しました。

森林クラウドシステムは、令和三年九月までの仮運用期間の後、同年十月から本運用が開始されており、森林クラウドシステムの利用契約を結んだ市町村等と県との間では、リアルタイムな情報共有が可能となりました。また、森林計画業務以外の機能も追加されたことで、様々な業務に係る情報の共有も期待されます。

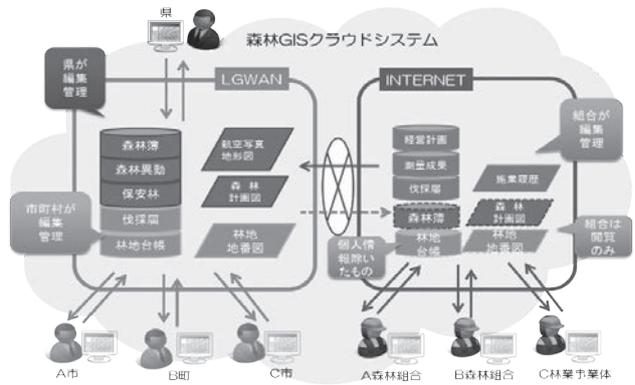
二・森林クラウドシステム以外の情報公開状況

①森林情報提供システム

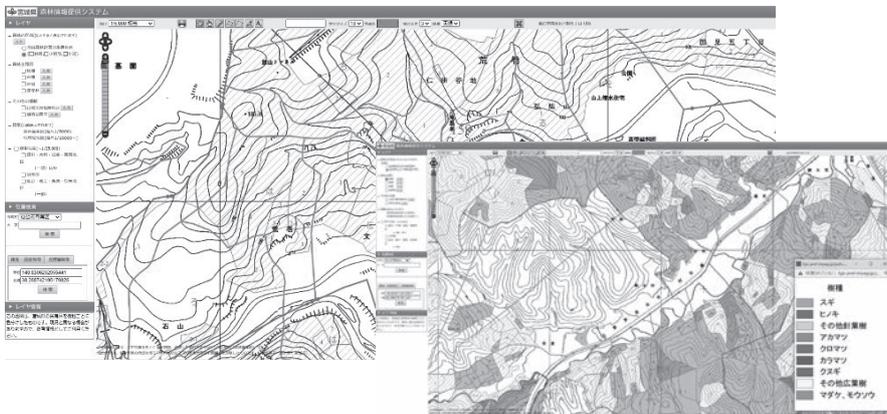
県では、平成二十七年頃から、県内の森林計画対象民有林の区域を、インターネットで閲



森林クラウドシステムの外観



森林クラウドシステムの概要



森林情報提供システムの外観

覧できる「森林情報提供システム (http://fgis-pref-miyagi.jp)」により公開しています。森林情報提供システムでは、森林の区域のほかに樹種や林齢で区分した主題図の表示も可能となっており、森林の構成などの情報を簡単に見ることができ

②森林簿情報のオープンデータ化

これまで森林簿は、申請によって閲覧・交付が可能としてきましたが、主要な項目をオープンデータとして森林・林業の研究活動や森林整備等が行う方が手軽に情報を手取りできるよう令和四年一月から森林簿情報オープンデータサイトの運用を開始しました。

県では、森林情報のデジタル化を推進し、利便性の向上や業務の効率化を図ってまいります。

森林簿情報オープンデータサイト

森林簿情報のオープンデータ化について

県では、国・地方公共団体の保有するデータのうち公開可能なものを活用し、公開可能なデータをオープンデータ化しました。

オープンデータについて

オープンデータとは、国・地方公共団体の保有するデータのうち公開可能なものを活用し、公開可能なデータをオープンデータ化しました。

森林簿情報オープンデータサイトの外観

URL:https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyosk/shinrinbo_opendate.html

（林業振興課）

令和三年度県産材新流通システム構築事業現地検討会について

県では、県産材の流通量拡大を図り、年間素材生産量七十万立法材の目標に至るため、より効率的な素材の供給体制の構築することを目的に、「令和三年度県産材新流通システム構築事業」を実施しております。

本事業は素材の材積を測定する「検知作業」に焦点を当て、作業において省力化を図ることができないか検討しました。従来の検知作業は一本一本手作業で行いますが、今回、最新鋭の機材である「写真丸太検知システム」及び「材積測定機能付きハーベスタ」を用いることでどの程度省力化が可能か、その他メリットがあるかということについて実証を行いました。

昨年十一月から実証を開始し、その成果を報告するため、十二月十四日に「県産材新流通システム構築事業現地検討会」を開催しました。当日は活用した機材をメーカーの方から情報提供をいただくとともに、実証の途中結果について情報提供しました。実証結果は、材積の



(林業振興課)

現地での実演には多くの関係者が参加

測定誤差は少なく、作業時間が短縮化されることが判明しました。また、素材生産量を適時把握することができると、生産管理等でメリットがある事も分かりました。一方、トラックに積み込む段階での素材の管理が困難なこと、材積の測定精度について県内における積み上げが少ないことなどの理由から実際の取引で活用するにはハードルがあるということが分かりました。素材生産体制を効率化していくためには、県が率先して新たな取組を行い、その実用可能性を検証し、県内林業関係者に発信していくことが重要と考えられています。今後も素材生産量増加に向け、様々な取組を展開してまいります。

東日本大震災による海岸防災林の復旧と今後の保育管理について

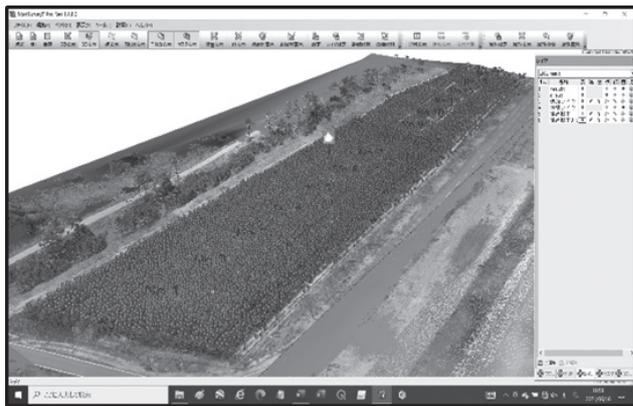
東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けた海岸防災林の植栽が令和三年四月末までに完了しました。

今後は、民有林の海岸防災林約七百五十三筋について、県が下刈や本数調整伐(植栽木の間伐)等の保育管理を行っていきます。

海岸防災林としての機能を早期に発揮させるためには、適切な時期に必要な作業を行うことが重要であり、仙台湾沿岸を中心とした広大な面積の海岸防災林を効率的に管理していくことが求められています。

具体的な実施方法は国のガイドラインに沿って行いますが、本数調整伐の実施の目安となる樹高との照合や生育不良箇所の特定など現況を十分に把握することが重要なことから、県ではUAV(ドローン)を活用し、保育管理の計画資料作成に取り組みんでいます。

UAVを活用した写真測量により、オルソ画像及び縦横断面の作成や樹高データの予測及び



(森林整備課)

保育管理計画の基礎となるUAVによる3D点群画像

解析等ができ、下草の繁茂状況や排水不良による生育不良箇所が確認できるほか、植栽木の樹高などを視覚的に表現することが可能なことから、現在、これら解析結果をもとに箇所毎に実施すべき作業と実施時期などを取りまとめられています。今年度内に保育作業の方法なども示した一定の保育管理計画を作成し、海岸防災林の再生に引き続き関わっていただいている民間団体などへも情報提供することとしています。

首都圏における県産木材 販路拡大に向けて

県産材の更なる販路拡大に向け、大消費地である首都圏において宮城県産材のPR活動を展開しています。

①首都圏自治体に向けた取組

県と親交のある自治体に対し、県内における林業の取組や多様な木材製品を紹介しました。また、県内市町村の希望を踏まえ、首都圏自治体を訪問し、森林・林業を活用した交流について意見交換を行いました。初めての取組となるため、両自治体のニーズを把握し、今後も継続的に支援してまいります。

②東京事務所内の普及展示

県産材を常時展示するため、所内ショーウィンドウのバックボードとして木製パネルを設置しました。本パネルは、南三陸森林管理協議会及び登米市森林管理協議会から、それぞれFSC[®]認証材を提供いただき、県職員自ら施工を行いました。

「木材利用促進月間」にあたる昨年十月には、FSC[®]認証材や矢羽根材を中心とした木製品



リニューアルした東京事務所ショーウィンドウ

及び県内の取組について展示し、来所者向けに幅広くPRを行いました。

③各種イベントでの展示

県産食材を中心とした物産販売イベントの機会を通じ、木材製品の展示を行いました。イベント販売は当県のアンテナショップである「宮城ふるさとプラザ」を紹介することから、令和二年度は展示に限定されましたが、今後は販売にも力を入れてまいります。

新型コロナウイルス感染症対策として、行動制限やイベント開催の自粛等が要請される中、現在は活動が限定されておりますが、ポストコロナを見据え、今後も関係機関と連携し、首都圏での宮城県産材及び木材製品の普及に取り組んでまいります。

(東京事務所)

山元町の菌床しいたけ 「しいたけ婦人」デビュー



このたび、山元町の菌床しいたけ生産者のもとに、綺麗で可愛らしい「しいたけ婦人」が誕生しました。

当事務所では、菌床しいたけのブランド化・差別化を図る第一歩として、地域資源活用「芽」づくり推進事業を活用し、昨年八月から商品名やラベルシールの開発を支援してきました。

開発にあたっては、県内の6次産業化の専門家からのアドバイスを受け、長く愛され続ける名前を付けたいとのおいから、生産者が悩んだ末に「しいたけ婦人」に決定しました。ネーミングに合わせて親しみやすいキャラクターも作成しました。

しいたけ婦人のキャラクターは、しいたけの傘を帽子のつばに見立て、リンゴのブローチをアクセントに着飾った綺麗な御婦人となっています。リンゴのブローチは、しいたけを採り終えた菌床ブロック(廃菌床)を、リンゴ栽培の肥料に活用するな

ど、生産者の環境配慮行動を伝えるものです。

「しいたけ婦人」は、食べてキレイな御婦人になろうというコンセプトで作られており、少しでも多くの方々にしいたけの美味しさを知ってほしい、子どもたちが安心・安全に食べられる新鮮なしいたけを届けたい、そんな生産者の熱い想いが詰まっています。

「しいたけ婦人」は国産広葉樹を使用した自家生産の菌床を用いて栽培され、肉厚で芳醇な香りを持つ品質の良さが自慢です。仙台市近郊のスーパや山元町の直売所「夢いちごの郷」などで販売されていますので、見

かけたらかけては是非お手にとってご賞味ください。



しいたけ婦人のラベルシールが輝かしい

(仙台地方振興事務所)

令和元年東日本台風被害地の緊急治山工事が完成しました

宮城県内各地に猛威を振るった「令和元年東日本台風」では、林地においても数多くの土砂崩れが発生し、土石流が人家や道路を直撃するなど過去に例のないほどの被害を及ぼしました。大河原地方事務所管内においては、丸森町を中心に百四十箇所六十五億円もの林地被害となり、荒廃した森林や溪流に堆積している土砂の状況から、降雨等による被害の拡大が懸念されました。

そのため、住宅や主要公道等へ被害を及ぼす危険性が高くなっている箇所を「災害関連緊急治山工事」として復旧することとし、工事進捗を最優先に進めてきました。この工事は、丸森町十三箇所、白石市一箇所の計十四箇所、大規模な土砂崩れにより四名の方が犠牲となった丸森町子安地区も含まれます。被災により進入経路が断たれる等困難な現場条件でありましたが、地元の皆様の大なる御協力と施工会社の努力の甲斐あって、令和四年二月末日を

もって全箇所完成することができました。これにより、「治山ダム」と呼ばれる溪流から土砂が流れ出るのを防ぐための施設を三十五基、「土留工」と呼ばれる崩壊した山を森林に戻すための施設を二十基整備することができました。

緊急的な工事は今回完成しましたが、台風被害による林地の復旧工事は継続して実施しております。地域の皆様の安全・安心な暮らしを守るため、災害に強い森林づくりを進めてまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いします。



大きな被害のあった丸森町廻倉地区

(大河原地方振興事務所)

コンクリートで山を守る

元年東日本台風災害復旧工事の完了

コンクリートのダムは水を貯めるものと思われがちですが、水を貯めないダムがあります。土砂をせき止めて災害を防止する砂防ダム、溪流を安定させて森林を守るのが治山ダムです。

なお、目的の違いにより、砂防ダムは国交省、治山ダムは林野庁が所管しています。

治山ダムは、一般的には砂防ダムよりも上流域に造られ、小さな構造のため土砂をせき止める能力は小さいのですが、ダム背後部に土砂を固定させることによって溪流の浸食を防止し、荒廃した森林や溪流の復旧を図る施設です。溪流と森林を安定させることによって下流の道路や人家などの保全対象を災害から守ります。

近年の大きな災害では、令和元年十月十二日に接近・通過した台風十九号に伴う記録的な大雨によって、東北地方の広い範囲で河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水害が発生しました。

登米管内は古い地質年代から

なる堅固な地盤で構成され、降雨災害に比較的強い地域ですが、この大雨によって溪流が浸食され、土石流となって公道等に流出する被害が多発しました。

溪流の著しい荒廃により堆積した不安定土砂が、その後の大雨によってさらに下流へと流出する恐れがあったことから、特に被害の大きい旧津山町、旧東和町の四地区に谷止工八基を整備する災害復旧事業に着手し、令和四年三月の完成に向けて順調に工事が進んでいます。

森林は公益的な機能を持ち、地域の暮らしに不可欠なものです。今後も関係機関と連携しながら地域の治山治水に努めてまいります。



完成したコンクリート治山ダム (仏沢地区)

(東部地方振興事務所)

登米地域事務所

林道施設災害（令和元年十月十二〜十三日発生）の復旧完了

令和元年東日本台風に伴う記録的な大雨は県内各地に甚大な被害をもたらし、当管内の林道施設においても、石巻市と女川町で合わせて七十二路線四百九十二箇所が被害が発生しました。

降雨量は、石巻市や女川町において二十四時間雨量で二二〇〜三五二ミリを記録し、その大半が十数時間という短時間に集中的に降っていました。

災害復旧のため発注された工事は十四件（二十六路線）四億一千三百万円余りとなり、過去に例を見ない規模となりました。令和三年十二月末現在、二十一路線が完成し、残る五路線も今年度中に復旧が完了する見込みです。

林道担当者として多少の不安感を覚えるとともに、当時の数々の記憶がよみがえります。

被害の多くは路盤洗掘や路肩決壊でしたが、林道下流部で路体が寸断された路線も多く、車両による現地調査が思うように進まず、当所からも職員を派遣

し、何とか被害箇所を確定させました。

引き続き災害査定に向けて資料の作成にとりかかりましたが、設計図書の簡素化が図られる大規模災害査定方針が適用されたものの、資料のボリュームはさほど変わらず、復旧工法の検討や査定設計書の図面の作成など様々な面で支援を行い、その作業は連日夜遅くまでかかりました。そのような中、災害査定も始まり、ひとつの査定を受けながら次の査定資料を作成するという慌ただしさでした。

市町担当者をはじめ、コンサルの方々への頑張りによって感謝申し上げます。



石巻市(旧北上町)「山相線」の復旧前後

(東部地方振興事務所)

栗原市における新たな森林管理システムの取組

森林経営管理法に基づく「新たな森林管理システム」がスタートして三年が経とうとしています。同法の目的は、森林の経営管理が行われていない森林について、市町村が仲介役となり森林所有者（以下、所有者）と林業経営者をつなぐもので、県内全域で取組が進められています。

栗原市では国の「事務の手引き」に従い、令和元年度から手入れ不足の人工林を対象に森林経営管理権の集積（所有者からの管理受託）に取り組んでいます。市西部地域は林業が盛んで、従来から森林の整備が進められてきているため、まずは同整備が遅れ気味な東部地域の六地域（築館・若柳・高清水・瀬峰・金成・志波姫）の森林約一〇二〇㌾を対象に、令和元年度から二年度まで栗駒高原森林組合へ業務を委託し、所有者への意向調査を進めてきました。調査結果では所有者の半数以上が市の管理委託を希望しており、こうした方々を対象に令和

三年度は経営管理権集積計画の策定が行われました。

栗原市地域林政アドバイザーが中心となり、対象地の状況確認を行い、所有者へ管理方法の説明を重ね、集積計画と管理委託の同意をとりまとめました。令和四年一月までに、約八十五㌾の集積計画の公告を済ませており、次年度からいよいよ森林整備が始まる予定です。

栗原市では、「この取組を各地域で着実に進めながら、適正な森林管理や地域林業の振興を進めたい。」としており、当事務所でも市と連携しながらこの取組を積極的に推進していくことにしています。



森林所有者へ計画内容を説明

(北部地方振興事務所
栗原地域事務所)

カシナガ大軍団を一斉捕獲

令和二年九月に登米市内の広葉樹の伐採地を訪れた際に、大量の細かい木くず(フラス)が吹き出しているコナラの伐根を発見しました。



コナラ伐根から発生する大量の木くず(フラス)

ナラ枯れの原因となるカシナガキイムシ(以下、カシナガ)が、この伐根の中で繁殖していると推定されたため、翌年六月、粘着シートを伐根に巻き付け、羽化脱出するカシナガの捕獲を試みることにしました。三ヶ月後、粘着シートを剥がしてみると、なんと約一万三千頭ものカシナガが脱出直後に捕獲

されていきました。

今回の結果は、ナラ林の伐採・更新を進める際には、伐根におけるカシナガの繁殖を防止するため、伐採高はできるだけ低くする等の対策が重要であることを示唆しています。



捕獲作戦開始
粘着シート巻き付け作業



羽化脱出直後に捕獲された13,000頭のカシナガ(一粒一粒がカシナガ)

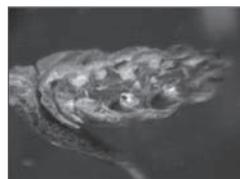
(東部地方振興事務所
登米地域事務所)

雄性不稔(無花粉)スギ個体の作出と品種開発に関する研究

この研究課題では、森林総合研究所林木育種センターが開発した雄性不稔(無花粉)スギ品種「爽春」と県内から選抜した精英樹との人工交配を進め、本県由来の雄性不稔スギ品種の開発に取り組んでいます。



人工交配は袋中で行う



雄性不稔個体の雄花断面

一般的に雄性不稔形質は一对の劣性遺伝子によって支配されており、メンデルの遺伝の法則に従うことが判明しています。例えば、可稔性(花粉を作れる)の遺伝子を「A」、不稔性(花粉を作れない)の遺伝子を「a」とすると、「AA」または「Aa」の場合は正常に花粉を作り、「aa」の場合のみ雄性不稔となります。

現存するスギのほとんどは遺伝子が「AA」であり、精英樹も同様と考えられます。そのため、爽春を素材に本県由来の雄性不

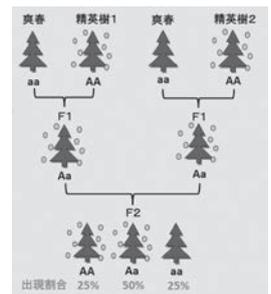


図1 雄性不稔品種作出の流れ

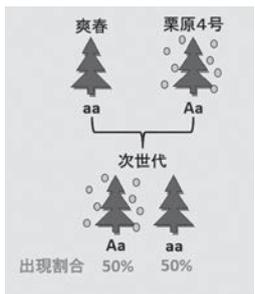


図2 雄性不稔品種作出の流れ(爽春と栗原4号)

稔品種を作出する流れは図1のようになります。このように二世代の交配を経て雄性不稔品種を作出するので「栗原4号」の遺伝子が「Aa」であることが判明しました。そのため栗原4号(Aa)と爽春(aa)、またはF1個体(Aa)を交配すると次世代で雄性不稔個体が出てくるので、品種開発の加速化が期待できるようになりました。(図2)

今後、交配を進め、一日も早く雄性不稔品種を開発し、早期に普及できるように取り組んでいきます。(林業技術総合センター)

鳥獣被害対策 意見交換会の開催

当事務所管内の南三陸町は、東側が太平洋に面する一方、残り三方には町境まで森林が広がり、海と山が近い変化に富んだ自然環境を有しています。人間の生活圏と自然が近接していることから、近年のニホンジカ・イノシシの生息区域拡大に伴い、農作物等の被害増加が懸念されています。

この状況を受けて、山形県森林研究研修センターから中村研究開発専門員と古澤専門研究員を講師にお招きし、農林業の行政関係者が参集した鳥獣被害対策意見交換会を令和三年十月四日に開催しました。

南三陸町農林水産課からは、ニホンジカの捕獲は平成二十九年度以降本格化し、令和二年度には捕獲数が前年度比百四十割の百二十四頭に達するなど、捕獲数の急激な増加が報告されました。県の指定鳥獣管理計画では、南三陸町は「侵入抑制区域」に指定されていますが、北から岩手県五葉山系、南からは牡鹿半島系のニホンジカが混在して町内に侵入していると想定されます。また、イノシシの捕獲数

は、平成三十年度はゼロ頭でしたが、令和二年度は十三頭となりました。

ニホンジカ等の生息区域拡大に伴い、野生鳥獣による農業被害額は令和二年度には三百九十四万円まで増加しており、当所農業振興部からは、耕地面積に対して被害面積が大きいなどの町の特徴が示唆されました。

山形県森林研究研修センターからは、生息環境管理としての圃場周辺の緩衝帯整備について、ニホンジカの開放地における夜間の行動特性を踏まえると、防鹿柵設置との一体的実施が効果的との指摘がありました。

また、緩衝帯として整備した林縁部等の活用方法として、ニホンジカの不嗜好性植物物であるワラビの活用が紹介され、当センターが開発したワラビポット苗の定植により、伐採跡地の一年でのワラビ園地化が可能とのことで、防鹿柵はメンテナンスが必要なため、緩衝帯を活用したワラビ栽培とセットで実施することで、獣害対策の継続性や意識向上が確保されると考えられ、今後は管内へのモデル地区設置を検討していきます。

(気仙沼地方振興事務所)

屋敷林は野鳥の社交の場

令和三年十二月に、美里町立中埜小学校において、「愛鳥モデル推進校事業」を実施しました。事業は、「野生生物保護意識の啓発を目的としたもので、野鳥を観察することで、野生生物の保護や自然環境の大切さを学ぶことを目的としたものです。

開催に先立ち、学校周辺での観察地を調査したところ、辺りには野鳥が生息しそうな「森」は見当たりません。

しかし調査を進めると、学校から四百メートルほど南東に屋敷林がありました。

屋敷林はスギやモウソウ竹が繁茂しており、そこからは多種の野鳥の鳴き声が確認できまし



児童が参加した野鳥観察会
(後ろが屋敷林)

た。さらには、近くにあった柿の実をついばみにヒヨドリが飛来、絶好の観察地です。

野鳥観察会当日は、トビ、ヒヨドリ、モズ、ハクセイキレイのほか、マガンの群れが学校のすぐ隣の田んぼで確認されるなど、児童たちは熱心に野鳥を観察していました。



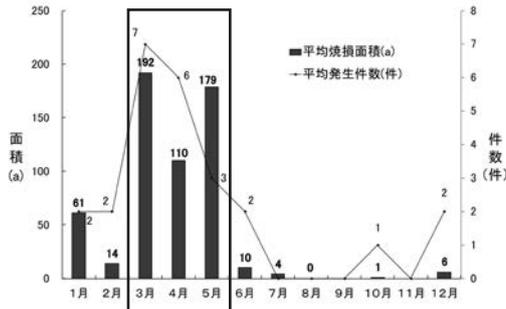
野鳥の憩いの場となる
学校周辺の屋敷林

屋敷林は、暴風や風雪などから家屋を守るために植栽されたもので、中には、樹齢が百年近くになるものも少なくありません。面積的には小規模ではあるものの、野鳥たちの憩いの場となっており、日常生活では気が付きませんが、良く観察してみると色々な野鳥の声や姿を見ることが出来ます。

(北部地方振興事務所)

春の山火事に 御注意ください！

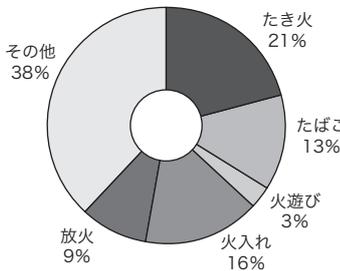
県では、三月一日から五月末まで山火事予防運動を行っています。例年、春先は空気が乾燥し、一年のうちで最も山火事が発生しやすい時期となります。平成二十七年から五年間の平均では、三月から五月にかけて十六件(約五割)の山火事が発生しており、発生件数全体の約六割、面積では約八割がこの三か月に集中しています(図1)。



(図1)月別発生状況 (平成27年から令和元年までの平均)

判明している原因では、例年たき火によるものが最も多く(図2)、僅かな不注意から発生していると考えられます。

- ① 強風時及び乾燥時や、枯れ草等のある場所ではたき火や火入れをしない
 - ② 火気使用中はその場を離れず完全に消火したことを確認する
 - ③ たばこは指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消すとともに投げ捨てない
 - ④ 火遊びはしない
- このようなことを一人一人が気をつけることで山火事を防ぐことができます。



(図2)原因別発生割合 (平成27年から令和元年までの平均)

最近では新型コロナウイルス感染症予防で密を避けるためアウトドアブームも広がっており、キャンプの後始末にも注意を払う必要があります。宮城の美しい森林を守るため、火の取扱いには十分気を付けていただくよう、御協力をお願いいたします。

(森林整備課)

地域の緑化活動のための寄附金 「宮城みどりの基金」

県では、緑化活動による、みどり豊かな県土づくりに役立てるため、「宮城みどりの基金」への寄附を募集しております。

寄附金の活用方法

この基金を活用している事業として、「百万本植樹事業」があります。

この事業は、応募をいただいた住民団体等に対し、県内のご希望の場所へ苗木を無償でお届けし、公園や公民館、学校などの多くの県民の目に触れる場所に植樹していただくものです。



百万本植樹事業による植樹活動



百万本植樹事業の植栽地

寄附の申込方法

- ① 寄附申込書により申込下さい。申込後、宮城県から納入先金融機関が記載されている「納付書兼領収書」を送付しますので、寄附金の振り込みをお願いします。
- ② 募金箱による寄附
気軽にご寄附いただくため、県内の金融機関にも専用の募金箱を設置しております。
- ③ お問い合わせ先

県自然保護課みどり保全班
電話〇二二―二二二―二六七六
詳細は県自然保護課「宮城みどりの基金」HPをご覧ください。
県内のみどりを増やす取り組みに、ぜひ御協力をお願いします。
(自然保護課)

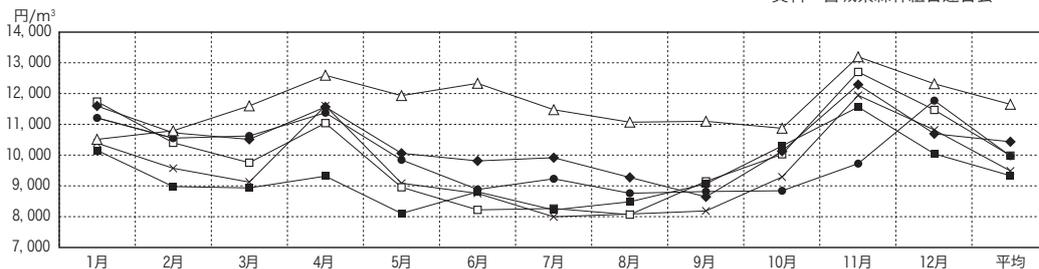
木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和3年12月)

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)				
			仙南	仙北	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—
		20~30	12,600	—	12,600	12,600	—
	4.00	10~13直曲	7,200	12,600	12,600	12,240	—
		14~18	9,000	12,600	12,600	12,240	—
		20~28	12,600	13,750	13,750	12,600	—
		30上	12,600	13,750	13,750	12,600	—
	3.65 ~4.00	20~28	—	—	—	—	—
		30上	—	—	—	—	—
1.95	18上	—	—	—	—	—	

資料:宮城県森林組合連合会

概況
素材動向
 ・素材平均価格は前年と比較し、高い水準で推移している。



—×— 平成28年
 —□— 平成29年
 —●— 平成30年
 —○— 平成31年
 —■— 令和2年
 —△— 令和3年

素材:県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

特産市況の動向

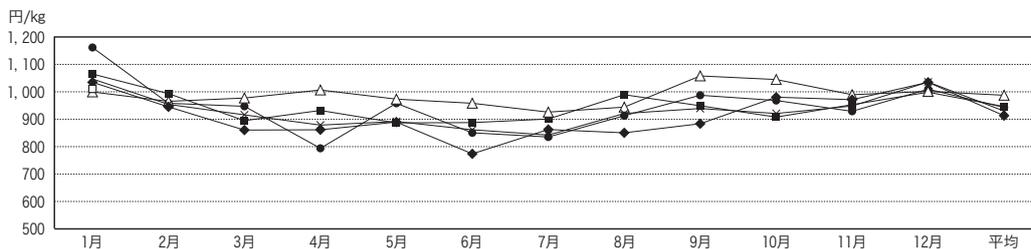
表2 生しいたけ価格の市況

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成29年	1,034	945	861	862	890	775	863	851	884	980	971	1,034
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046	954	916	879	892	862	843	921	939	921	948	1,035
令和4年	1,010											

資料:仙台中央卸売市場

概況
 ・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、平成26年次以降は900円代と、震災前の平均価格を上回っている。
 ・令和3年の生しいたけ年平均の単価(円/kg)は前年を下回って推移している状況である。



—●— 平成29年
 —○— 平成30年
 —■— 平成31年
 —△— 令和2年
 —×— 令和3年
 —□— 令和4年

図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和3年11月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和3年11月(戸)	1,650	1,207	443	73.2
令和2年11月(戸)	1,453	1,095	358	75.4
前年同月比(%)	113.6	110.2	123.7	—
令和2年12月~令和3年11月(戸)	15,802	11,721	4,081	74.2
令和元年12月~令和2年11月(戸)	14,614	10,566	4,048	72.3
前年同期比(%)	108.1	110.9	100.8	—

資料:住宅着工統計

概況
新設住宅着工戸数
 ・11月の新設住宅着工数(木造)は対前年比で増加している。
 ・1年間の新設住宅累計及び木造率は、いずれも前年より増加している。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所



坂元植林合資会社 株式会社サカモト 坂元植林の家

サカモトグループ



地域との共生
「めぐりめぐみ」をテーマに
私たちは自然を愛し、
大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 武弘
専務理事 小澤 幸三
理事 亀山 征弘
理事 石田 竜也
監事 阿部 貢夫
監事 一條 英夫

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 米澤 光秀
副会長 奥津 文男
副会長 永井 政雄
副会長 菅原 正義
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4-46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266-7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- 製材機械
- プレカット機械 「木」に関連する機械の販売及びメンテナンス
- 農林業機械



筒井鋼機株式会社

☎ (022)224-1261 〒980-0013
📄 (022)265-9231 仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

森林は大切な資源です
 森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 **宮城県林業公社**
 (森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
 TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

住んでよし! 建てて満足!
「優良みやぎ材」の家



優良みやぎ材, 県産材等についてのお問合せは

みやぎ材利用センター

仙台市青葉区東照宮1-8-8

▶本部/宮城県木材協同組合 tel: 022(233)2883

▶総合窓口/宮城木材文化ホール tel: 022(239)2661

スゴいぞ! みやぎの木のチカラ!



木×SDGs

Wise use of woods from **みやぎ!**

県土の約6割を占める森林は, 水源のかん養や山地災害の防止など多様な機能を担っており, その発揮が様々なSDGsの目標達成に貢献しています。また, 製造時のCO2排出量が少なく, 内部に炭素を蓄える「木材」を上手に利用すること(木材のワイズユース)は温暖化防止など様々なSDGsに貢献し, そこから生み出される恵みを森林の再生に還元させることで持続可能な循環を作り出すことができます。

みやぎには良質な木材や優れた加工技術があり, JAS製材品など品質の高い製品も豊富です。どうぞ住まいづくりや街づくり等において「みやぎの木のチカラ」を改めて実感してください。私たちが誠意を込めてお手伝いします。

宮城県木材協同組合の取組例

**JAS製材品の
利用拡大**



公営住宅建築における
JAS材利用

外構の木質化



門扉(塀)の木質化

宮城県木材協同組合・みやぎ材利用センター 理事長 千葉 基 tel: 022(233)2883
<https://miyagi-wood.jp>



緑の募金にご協力をお願いします!

「緑の募金で進めよう SDGs」 ~森林を守る 森林を活かす~

公益社団法人 **宮城県緑化推進委員会**

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
 TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)^{もりちから}等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-65-2166 仙北地区木材センター 0229-72-1877
大衡総合センター 022-345-2205 津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ、
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の^今を伝える月刊誌

令和4年度の購読申込受付開始!!



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,400円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 3,000円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号
編集協力 宮城県水産林政部林業振興課

☎022-222-3011